



教員紹介

経営学部

武村 和正 TAKEMURA Kazumasa

職位	教授
最終学歴	アリゾナ州立大学 W.P.ケリー スクール・オブ・ビジネス 修士課程(MBA プログラム)修了
職歴	<p>①系統金融機関にて金融デリバティブズおよび外国為替トレーダー、クレジット・アナリスト、機関投資家、資産証券化などの業務に従事。</p> <p>②シンクタンクにてカントリーリスク調査にかかるエコノミスト業務に従事。</p> <p>③地域金融機関にて調査・研究業務などに従事。並行してファイナンシャル・プランニング(FP)業務を展開。</p> <p>④北陸大学・教授として金融・ファイナンス全般、マネジメント科目を担当。</p>
学位	Master of Business Administration (MBA)
資格 (免許)、認定	<p>日本証券アナリスト協会 認定アナリスト</p> <p>Certified Financial Planner (CFP. FP の国際標準資格) 合格</p>
担当科目 (学部)	ゼミナール I・II (国際金融、ファイナンシャル・プランニング)、金融リテラシー、金融論、コーポレート・ファイナンス など
担当科目 (大学院)	
学生へのメッセージ	<p>私は 25 年間のビジネス実務経験を持ち、また、国内の大学と米国 MBA プログラムとの両方でファイナンスおよび経営管理を学びました。それ以降懸念してきたのが、日本のビジネスパーソンの意思決定の遅さです。要因の 1 つはコーポレート・ファイナンスにかかる「馴染み」。欧米・アジアを問わず企業はプロジェクトなどへの取組みに際して、基本的にはファイナンス評価を判断材料とします。一方で日本では今なお、明確かつ客観的な判断材料をもたない企業が少なくないとみられます。</p> <p>また、日本のビジネスパーソンは「先義後利」という言葉を好みます。この発想は米国人の間でもみられますが、捉え方は真逆です。日本では自己満足で「義」を定義し、その後に「利」がついてこない点をさほど問題視しません。一方で米国では、大きな「利」を生み出したからこそ、それまでの業が「義」であったと解釈します。大学教員になる直前、日本の若い研究者から「自己満足の義」の発想を押し付けられた時、日本のビジネス教育は 30 年前から進んでいないのかと悲しくなりました。わが国凋落の象徴です。</p> <p>私が目指すのは端的に、実務経験と海外経験とがなければ不可能な、実践的な金融およびビジネス教育です。</p>

研究内容	①金融リテラシーの涵養およびファイナンシャル・プランナー育成を軸とした中堅私立大学における金融・ファイナンス教育 ②ファイナンス領域の知見を活かした日本政府の財政実態の把握
研究分野キーワード	パーソナル・ファイナンス、ソブリン・ファイナンス、金融リテラシー、コーポレート・ファイナンス
URL	https://researchmap.jp/asukaz
著書	武村和正（2017）『12のストーリーで高める バンカーの教養』幻冬舎
論文	武村和正（2011）「ハンガリー共和国：ソブリン・デフォルトリスクと債務の持続性」『国際金融』1222号
学会発表	武村和正「財政実態の把握に有益な金融経済教育の考察」経済教育学会 2023年春季研究集会 2022年3月4日
社会的活動 (公開講座・講演・ 国際交流など)	<p>【市民講座】 「日本の財政は、本当に破たん危機？」北陸大学・金沢市民講座 2022年9月10日 「外国為替相場は、なぜ円安・円高へと変動するのか？」北陸大学・金沢市民講座 2022年2月5日 「イノベーションを実現する、革新的な企業文化とは」北陸大学・金沢市民講座 2021年3月6日</p> <p>【経営者・管理職者向け講座】 「イノベーションを実現する、革新的な企業文化とは」MBC 金沢 松下幸之助研究会 2021年9月7日</p>
その他	<p>【所属学会・協会】 日本金融学会 日本FP学会 経済教育学会 日本証券アナリスト協会 日本FP協会</p> <p>【(上記以外で)これまで担当経験のある授業科目】 ・FP3級および2級技能検定試験対策授業 ・外国為替論 ・国際金融論 ・ビジネス・エコノミクス ・組織行動論 ・人的資源管理論 ・経営学入門 ・経済学入門 など</p>